

# 平成28年度事業報告書

一般財団法人 日本自転車普及協会

## 平成 28 年度 事業報告書

### I. 事業の概要

自転車は近距離交通手段・運搬手段としての利便性・経済性が高く、通勤・通学・買い物等広く市民生活の中で利用されている。加えて、現代人の健康志向を受けてスポーツ・レクリエーションの用具としての活用も高まってきている。また、近年、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となってきている中、その対策の一つとして、自転車の無公害・省資源性が注目されていることなどから、一層の自転車利用が進んでいる。

しかしながら、自転車乗用環境の整備はいまだ立ち遅れており、自転車利用者のモラルの低下などによる鉄道駅周辺や商店街地区などに見られる自転車の放置問題なども十分に改善されているとは言い難い状況にある。また、交通ルール・マナーに関する教育も十分とは言えず、取り締まりも追いついていない中、自転車交通事故の減少は鈍く、未だに交通事故の約 2 割で推移している。特に、歩道上においての人と自転車の事故が目立っており、事故の補償を巡るトラブルの増加、賠償金の高額化など、深刻な社会問題となっている。

こうした状況の中、平成 27 年 6 月 1 日より改正道路交通法の一部が施行され、信号無視、酒酔い運転などの違反を繰り返す悪質な自転車運転者に対し、安全講習の受講が義務付けられることになるなど、自転車の安全利用促進に繋がることが期待される。

加えて、平成 28 年 12 月 16 日付で、議員立法による『自転車活用推進法』が公布され、当会が自転車月間推進協議会事務局として普及啓発してきた「5 月 5 日は自転車の日」「5 月は自転車月間」ということが、同法第 14 条において新たに定められた。

本会としても、自転車駐車場の整備や専用レーンの設置をはじめとする自転車の乗用環境の整備を積極的に推し進めていくとともに、道路交通法等関連法規の見直しを提案し、併せて、自転車利用者に対し交通規則遵守、マナーの向上を促す啓発活動を実践していくことが重要となっている。

本会は、このような認識のもと、国民が自転車を安全かつ快適に利用できる環境の早期実現を目指し、自転車利用により得られる様々な社会的効用を広めるため、競輪補助事業あるいは一般事業として、自転車安全利用の普及啓発、環境の整備促進等に関する事業を関係各方面の協力を得て次のとおり実施した。

\*なお、以下で【※】の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

## 1. 自転車競技の普及促進事業

### (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業【※】

### (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業【※】

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、5月の「自転車月間」主要行事として国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車レース「第19回ツアー・オブ・ジャパン」を大会史上初めて全8ステージにおいて開催した。全ステージ公道を使用したコース設定であり、一般市民やマスコミに対しても、注目度の高い大会となった。

また、「第20回ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動など広報活動の準備や大会開催記者発表を行った。

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

### (1) 自転車月間推進事業【※】

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」の趣旨を広く一般に周知するため、自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ」を聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において開催した。

また、平成29年度5月の自転車月間事業に向けて、自転車月間推進協議会総会を開催した。

### (2) 自転車文化センター運営事業【※】

自転車に関する正しい認識と理解を深め、国内における自転車文化を醸成するため、本会が運営する自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を中心に、次の事業を行った。

#### ① 自転車に関する総合情報提供事業【※】

自転車に対する市民及びメディアの関心は高く、各種自転車情報収集のニーズに対応するため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行った。

収集した資料・情報はデータベース等で管理し、研究成果と併せて、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供した他、現物及びデータ資料等をメディアや自治体が主催するイベント等に貸し出しを行った。

また、当センターのホームページにおいて成果を広報した。

#### ② 自転車に関する企画催事の実施【※】

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで創る、高い技術を持ったハンドメイドビルダーが製作した自転車や各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特殊な自転車を一堂に会して紹介する「2017 ハンドメイドバイシクル展」を、平成29年1月21日(土)、22日(日)に開催した。

本催事は、年々人気が高まっており、今年の入場者数は3,172人、対前年比123.8%であった。

#### ③ 自転車に関するテーマ展示【※】

自転車に関わる社会文化の歴史について、当センター所蔵資料を中心に、最新の情報を加えた紹介によって、自転車に対する興味・関心を深めてもらうとともに、自転車の魅力や新たな活用方法等を発信するため、3ヶ月ごとにテーマを変えたテ

マ展示を計 4 回開催した。

④ 自転車教室(楽しさと安全利用) 【※】

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の方が参加・体験できる親子自転車科学教室等を開催した。

加えて、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員、自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小・中学生や高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターを使用した実技体験を盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室を、合計 14 回開催した。

⑤ 自転車常設企画展示

年間を通じて、多数の来場者がある千代田区の科学技術館(展示室名:自転車広場【※】)及び伊豆の日本サイクルスポーツセンター・ペドロームにおいて、当センターの施設紹介と歴史的自転車の展示による広報活動を行った。

⑥ 自転車利用環境調査研究 【※】

当センターの学芸員 1 名及び職員 1 名が、自転車文化の承継と普及、ならびに現在・未来における「人と自転車」「社会と自転車」どの関わりを考える提案のための研究調査を行い、「高齢者の自転車利用」、「大学生の自転車利用」、「自転車 ADR センター」をテーマに 5 本のレポートにまとめて報告書を作成し、全国都道府県立図書館や交通安全協会等に送付した。

(3) バイコロジー推進事業 【※】

自転車の有効利用を奨励し、安全かつ快適に利用できる環境の実現を目指すバイコロジー運動を全国の地方組織を通じて実施した。

駅前などの街頭においては、自転車乗用環境の啓発に関する事業として、自転車利用者のルール遵守とマナー向上を図るキャンペーン等を行った。

また、バイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを開催した。

(4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、本年度においては 1 回実施した。

(5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査を行ったほか、自転車乗用環境の実態を把握するために駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認、および危険箇所の選定(交差点など)等の調査を行った。

#### (6)自転車駐車場設置貸与事業

全国の鉄道駅周辺の放置自転車対策としてモデルとなる整備した自転車駐車場について、無償貸与・譲渡を行った。

#### 3. 自転車 ADR 事業 注) ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車 ADR センターにおいて、自転車が関係する交通事故を専門に扱う ADR の業務を、年間を通して行った。

#### 4. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器、投票業務用機器等のリースを、希望施行者に対して実施した。

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

#### 5. 財団の運営に関する業務

平成 28 年 5 月、6 月及び平成 29 年 3 月に通常理事会(6 月は書面審議)を開催し、平成 28 年 6 月に定時評議員会を開催した。また、評議員会終了後、平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に提出した。

「自転車総合ビル」関係では、ビル内の管理及び各種工事を行った。また、「赤坂一丁目再開発ビル(正式名称:赤坂インターシティ AIR)」関係では、平成 29 年 8 月末の竣工に向けての各種会議に出席した。

## II. 事業の実施状況

### 1. 自転車競技の普及促進事業

#### (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業

#### (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業

5月の「自転車月間」の主要行事として、我国における自転車競技の普及発展に資するため、UCI(国際自転車競技連合)公認の日本唯一の都府県をまたぐステージレース「ツアー・オブ・ジャパン」自転車ロードレースを、第19回大会として平成28年5月29日～6月5日に開催した。UCIクラス2.1へのランクアップにより、トップレベルの選手が集うプロチームの参加が可能となり、海外チームからも出場オファーが多数寄せられる大会となった。これにより、一般観客に向けた自転車競技の普及促進、既存ファンの満足度向上、新規ファンの獲得、さらに海外の強豪選手と共にレースを走ることにより国内選手の自転車競技レベルの向上が図られる。コースについては大会史上初めて、第2ステージに新たに京都ステージを加え、堺、美濃、いなべ、南信州(飯田市)、富士山(小山町)、伊豆、東京の全8ステージ(最大日程の8連戦)、総走行距離747.45Kmで、国内8チーム、外国8チーム計96人の選手参加により実施した。

本大会は公道を使用して行うレースであり、広く一般に対し、いまだ軽視されがちな「自転車は軽車両である」という認識を高め、自転車走行環境の整備、利用者の交通ルール遵守、走行マナー向上等の重要性の周知を図り、さらに、身近である乗り物「自転車」によるロードレースを通し、その魅力・素晴らしさや可能性をPRすることで、我が国の自転車市民権の確立を目指した。

また、本大会を開催している地域の知名度の向上、大会を観光資源の一つとしたスポーツツーリズムの確立、地域の文化や経済の活性化に繋がる地域興しのモデルケースとなるよう努めた結果、観客数については、新設の京都ステージで50,000名という大変多くの集客を得ることができ、伊豆ステージを除き全てのステージで増加となった(平成27年度計/305,000名、平成28年度計/367,200名 ※対前年比120.3%)。

また、併せて、各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った他、“自転車は車道の左側を走行しましょう”等の自転車の安全で正しい利用を訴えた。

広報活動については、大会2ヶ月前にSUBARU本社ビル(恵比寿)にて記者発表を行い、大会の告知と取材誘致を図った。さらに、自転車月間の趣旨の周知を図るためプレスリリース及び大会告知ポスター・チラシを作成し、配布・提出した他、ホームページ及びFacebook(いいね件数7,948件/対前年比143.1%)も活用し情報発信を行った。

その他、大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動も行うとともに、4会場(堺・美濃・いなべ・東京ステージ)においては、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を実施した他、今大会初めて全8ステージ会場でAbemaTVにおけるライブストリーミング配信を行った結果、大会期間中トータルの視聴者数が231,231名(対前年比186.8%)となり、大変大勢の人々に観て頂いた。報道掲載件数は計361件(対前年比85.7%)となり、やや目標値を下回ったが、視聴者の情報入手先やメディア等の広報展開の場が、紙媒体からインターネットに大きく移行しつつある現状から見ると、とても大きな効果を得たと評価している。

また、2016年5月22日(日)に、初めての大会事前告知番組をBS日テレにて放映し、上記の観客動員に結び付ける一助としたと共に、2016年6月25日(土)にBS日テレに

て大会総集編番組を放映し、大変好評であった。

加えて、次年度開催の「第20回ツアー・オブ・ジャパン」の実施に向けて、コースの設定・招待チームの選定など、大会実施概要を策定し準備を行ったほか、「第20回ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動などの広報活動の準備や以下のとおり大会開催記者発表を行った。

① 実施の概要※本年は『伊勢志摩サミット』開催の影響で例年より2週間遅れで開催。

5月29日(日)堺ステージ 大阪府堺市(13時35分スタート)

大仙公園周回コース \*個人タイムトライアル

2.65 km×1周=2.65Km

5月30日(月)京都ステージ 京都府京田辺市(9時25分スタート)

(セレモニーラン:普賢寺ふれあいの駅→同志社大学京田辺キャンパス

→普賢寺小学校 5.5 km) 普賢寺小学校→けいはんなプラザ周回コース

(パレード 3.4 km) 4.2 km+16.8 km×6周=105.0Km

5月31日(火)美濃ステージ 岐阜県美濃市(9時15分スタート)

旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース

(パレード 4.0 km) 11.6 km+21.3 km×6周=139.4Km

6月1日(水)いなべステージ 三重県いなべ市(9時20分スタート)

阿下喜駅前→下野尻交差点～農業公園(梅林公園)周回コース

(パレード 2.8 km) 9.1 km+15.2 km×8周=130.7Km

6月2日(木)南信州ステージ 長野県飯田市(9時15分スタート)

飯田駅前→下久堅周回コース→松尾総合運動場前

(パレード 7.3 km) 12.2 km×10周+1.6 km=123.6Km

6月3日(金)富士山ステージ 静岡県駿東郡小山町(8時45分スタート)

(セレモニーラン:小山町生涯学習センター→須走商店街→ふじあざみライン入口  
13.2 km)

ふじあざみライン入口→富士山須走口5合目(ヒルクライム)

11.4Km(標高差1,200m登坂)

6月4日(土)伊豆ステージ 静岡県伊豆市(9時30分スタート)

日本サイクルスポーツセンター周回コース

12.2 km×10周=122.0Km

6月5日(日)東京ステージ 東京都(11時スタート)

日比谷シティ前→大井埠頭周回コース

(パレード 1.2 km) 14.7 km+7.0 km×14周=112.7Km

総距離 747.45Km

② 出場チーム

海外/ランプレ・メリダ(イタリア)、NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ(イタリア)、ユナイテッドヘルスケア プロフェッショナルサイクリングチーム(アメリカ)、ピシュガマン ジャイアント チーム(イラン)、アタック・チームガスト(台湾)、タブリーズ シャハルダリ チーム(イラン)、アヴァンティ アイソウェイ スポーツ(オーストラリア)、トレンガヌ サイクリングチーム(マレーシア)

国内/ブリヂストン アンカー サイクリングチーム、チーム右京、愛三工業レーシングチ

ーム、マトリックス パワータグ、宇都宮ブリッツェン、シマレーシングチーム、キナン サイクリングチーム、日本ナショナルチーム

③ 成績

個人総合時間賞 オスカル・プジョル(チーム右京)  
 個人総合ポイント賞 ピエールパオロ・デ ネグリ(NIPPO・ヴィーニファンティーニ)  
 個人総合山岳賞 ミルサマ・ポルセイエディゴラコール(タブリーズ・シャハルダリ)  
 新人賞 ダニエル・ホワイトハウス(トレンガヌ サイクリングチーム)  
 団体総合時間賞 タブリーズ シャハルダリチーム

④ 観客数

堺ステージ 76,000 人 (天候:晴れ)  
 京都ステージ 50,000 人 (天候:晴れ)  
 美濃ステージ 26,000 人 (天候:晴れ)  
 いなべステージ 20,000 人 (天候:晴れ)  
 南信州ステージ 38,000 人 (天候:晴れ)  
 富士山ステージ 7,000 人 (天候:晴れ)  
 伊豆ステージ 22,200 人 (天候:晴れ)  
 東京ステージ 128,000 人 (天候:曇り)  
 計 367,200 人

⑤ 広報活動

《第 19 回大会》

- ア.大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリース作成しマスコミ各社に送付した結果、新聞、雑誌、WEB にて多数取り上げられた。  
 イ.大会告知ポスターやチラシを作成し、4 月から 5 月にかけて全国の関係団体等に配布、提出したほか、公式プログラムを作成、販売した。また、ホームページ、Facebook(新規)も作成し、情報の発信を行った。  
 ウ.ツアー・オブ・ジャパン 4 会場(堺・美濃・いなべ・東京ステージ)において、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を行った。また今大会初めて全 8 ステージ会場で AbemaTV におけるライブストリーミング配信を行った。  
 加えてツアー・オブ・ジャパン各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った。  
 エ.大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動を展開した。

a. テレビによる広報

放映日	番組名	放送時間	放送波
5/22 (日)	【事前告知番組】 いよいよ開幕！自転車 TOUR OF JAPAN8 日間 747.45Km の熱き闘い	17:00 ～17:30	BS 日テレ
6/19 (日)	【東京ステージダイジェスト番組】 TOUR OF JAPAN 東京ステージ	11:30 ～12:30	日テレ ジータス
6/25 (土)	【総集編】 第 19 回ツアー・オブ・ジャパン 747.45Km、限界に挑む男達の戦い	16:00 ～17:00	BS 日テレ



b. 自転車専門誌による広報

掲載誌名	掲載号	掲載内容・スペース
サイクルスポーツ	6月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁
バイシクルクラブ	6月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁
バイシクル 21	5月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁

▼また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて、次の大会を開催した。

1. 「第6回堺国際クリテリウム」

- (1) 期間:平成28年5月29日(日)[10:50~11:35]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計96名 \*ツアー・オブ・ジャパン全出場選手

2. 「第5回JBCF(全日本実業団自転車競技連盟)堺クリテリウム」

- (1) 期間:平成28年5月29日(日)[11:45~13:05]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計81名

3. 「自転車月間 第5回JBCF大井埠頭ロードレース」

- (1) 期間:平成28年6月5日(日)[9:15~10:30]
- (2) コース:東京都品川区 大井埠頭周回コース(ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ周回コースと同コース)
- (3) 参加者:合計207名

《第20回大会》

ア.「第20回ツアー・オブ・ジャパン」公式記者発表

実施日:平成29年3月29日(水)18時~20時

実施場所:SUBARU STAR SQUARE(エビススバルビル 1F)

登壇者:MC:Alee/進行:栗村修(大会ディレクター)/大会冠協賛社御挨拶:NTN株式会社 大久保博司社長/トークショーゲスト:村上嘉之(MAVIC ニュートラルサービス)、鈴木真理選手(宇都宮ブリッツェン)、

取材社数:20社 計33名/協賛企業関係者6名及び事前募集の一般ファン約40名が参加。

掲載メディア:サイクリスト.jp・日刊スポーツ.com・サイクルスポーツ web・共同通信社及び時事通信社が取材・配信(各加盟社宛)他

本記者発表会において、記念となる第20回大会の開催にあたり、創業100周年を迎える世界的ベアリングメーカーであるNTN株式会社より、自転車と大会理念へのご賛同を頂き、大会史上初めて冠協賛を頂いたこと、第20回大会の節目を機に大会ロゴマークをリニューアルしたこと、リーダージャージ協賛ブランドがルコックスポルティフに変更となったこと等を発表すると共に、トークショーにおいて大会の歴史を振り返りながら新規ファンの獲得を目指すPRを行った。

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

### (1) 自転車月間推進事業

「自転車月間」は、昭和 56 年 5 月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が施行されたことを機に、自転車の持つ社会的責任を自覚しつつ、改めて自転車の可能性とそれを取り巻く諸問題の解決策などについて検討する機会として設定された。

#### ① 自転車月間推進協議会の開催

昭和 56 年度に関係省庁の後援を得て、自転車関係団体及び自転車月間の趣旨に賛同した公益法人等 39 団体(平成 28 年度においては 29 団体)によって「自転車月間推進協議会」が設置された。「自転車月間」の趣旨に沿った事業を重点的に実施することを目的として会議を開催し、事業報告・決算の承認を行った。

##### ア. 平成 28 年度第 1 回自転車月間推進協議会総会

日時:平成 28 年 8 月 2 日(火)14 時～

##### イ. 平成 28 年度第 2 回自転車月間推進協議会総会

日時:平成 29 年 3 月 14 日(火)14 時～

#### ② 「自転車の日」記念事業

自転車月間の設定趣旨を普及啓発するため、平成 10 年から 5 月 5 日を「自転車の日」と定めており、その記念行事として聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において「サイクルドリームフェスタ 2016」を開催した。

来場者数は 5,574 名(対前年比 138%)と前年度より 3 割以上増加した。

滞在時間が長く、アンケート集計にも面白かったという意見が多かった。ゴールデンウィーク期間中の開催ということもあり、家族連れが多く来場し、「ピーポくんの交通安全教室」や「自転車の乗り方教室」などを通じて、親子でルール・マナーを楽しく学ぶことや、試乗機会の少ない高級スポーツバイクと電動アシスト自転車で走る事で街乗りの軽快車との違いを体験するなど自転車に関する理解を深める場を提供することができた。

日時:平成 28 年 5 月 5 日(木・祝) 10:00～16:00

場所:聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路

来場者数:5, 574 名

(イベント内容)

<ステージイベント>

ア. 我らワールドが語る電波にはのせられないあんな話こんな話

・DJ サッシャ氏 / 栗村 修 ツアー・オブ・ジャパン大会ディレクター

イ. 自転車科学教室 ・谷田貝一男 自転車文化センター学芸員

ウ. 自転車メンテナンス講座 \*協力:なるしまフレンド(計 2 回)

エ. 自転車ファッション・グッズ紹介コーナー \*協力:出展各社(計 2 回)

オ. ピーポ君の自転車安全教室 \*協力:警視庁四谷警察署

カ. 輪行実演ステージ \*協力:アズマ産業(株)

キ. 愛車を守るツーロック大作戦 \*協力:警視庁生活安全総務課

ク. Cyclingood-自転車と健康の話・ \*協力:(株)シマノ

## <体験イベント>

- ア. 自転車体験試乗会 \*協力:(株)シマノ、パナソニックサイクルテック(株)、ブリヂストンサイクル(株)、(株)ミヤタサイクル、プロショップタカムラ製作所、アメアスポーツジャパン(株)、Y's Road、(株)日直商会、平和技術研究所、(株)オーエックスエンジニアリング、5LinKs Co.Ltd、ヨネックス(株)、(株)モトベロ、東洋フレーム(株)
- イ. おもしろ自転車試乗会 \*協力:(一財)日本サイクルスポーツセンター
- ウ. 自転車キッズ検定 \*協力:日本マウンテンバイク協会
- エ. 多目的自転車展示・試乗コーナー \*協力:紀洋産業(株)
- オ. パンク修理体験 \*本会職員が実施
- カ. 発電自転車体験コーナー
- キ. 自転車乗り方教室・白バイと記念撮影 \*協力:警視庁四谷警察署
- ク. シートベルトコンビンサー体験
- ケ. 自転車交通安全シミュレーター \*協力:東京都
- コ. 自転車月間・バイコロジーPR
- サ. パネル展示<「自転車月間とは」「自転車に乗って健康になろう」「自転車安全利用五則」「エコ通勤のすすめ」「バイコロジーってなに?」「ツアー・オブ・ジャパン」>

## (広報)

【事前】チラシ 6,000 枚を作成し、4 月から 5 月にかけて、開催地である東京都内を中心とした関係団体等に配布した。また自転車専門誌(サイクルスポーツ 6 月号・バイシクルクラブ 6 月号)と新聞広告(4/30 付・産経新聞)に告知広告を掲載した。また本会ホームページや自転車愛好者のアクセス数が高いホームページ(Cyclist、cyclo wired等)や新聞、テレビなどへのプレスリリース配信等の広報を行った。さらに、フェイスブックに広告を掲出し、一般向けに告知を行い、来場者の招致につなげた。

【当日】会場付近にて、チラシを配布し、会場への誘導を行った。

【事後】本会ホームページに実施結果を掲載すると共に、JSPORTS『BOOMER』にて、開催の様子が放送された。

## (2)自転車文化センター運営事業

自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するため、本会が運営する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、競輪からの支援による自転車関連の補助事業或いは当財団の自主事業による調査研究、資料の収集、情報の提供および広報活動等を行った。

### ①自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行った。

(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月の新規登録資料 1, 221 点)

平成 26 年 4 月 2 日より目黒・自転車総合ビルにリニューアルオープンをして、満 3

年を迎えた自転車文化センターには、本年度 7,861 名(1 日平均 25 名)が来館した。これら来館者に対して問合せ・図書等資料貸出に対応すると共に、電話・FAX・e-mail による問合せや相談・質問 87 件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行った。

また、平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、114,980 件となった(\*平成 10 年の運用開始からの述べアクセス件数は 2,509,362 件となっている)。

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼を受け、学芸員を中心に協力等の対応を行った(\*別紙 1「平成 28 年度自転車文化センター取材・協力等一覧」参照)

## ②自転車に関する企画催事の実施

自転車の総合情報発信基地である当センターが、過去 20 年以上に亘って開催してきた『ハンドメイドバイシクル』展は、自転車トラック競技の最高峰・競輪選手やロードレース選手、そして自転車スポーツ・サイクリング愛好家から好評を得てきた。

日本及び海外のハンドメイドビルダーの高い技術と自転車に対する深い造詣、そうした匠の技を自転車愛好家のみならず広く一般の人々に周知すると共に、乗り手の体格・目的に応じた自転車に乗って自転車スポーツを楽しむことの素晴らしさを啓発するため企画催事を開催した。

名称:『2017 ハンドメイドバイシクル展』

期間:平成 29 年 1 月 21 日(土)・22 日(日)9 時 30 分～16 時 50 分

場所:科学技術館 1 階 1～4 号催事場

内容:ア.ハンドメイドビルダーによる実車及びパーツメーカーによる部品の展示

- ・「スポーツ用自転車」部門
- ・「街乗り用(高齢者・障害者用含む)自転車」部門
- ・「独創的パーツ」部門

イ.ハンドメイドビルダーによるトークショー(2 社/各約 1 時間)

- ・サイクル&カヌー アマンダスポーツ 千葉洋三氏 1/21 11 時 30 分から
- ・エム. マキノサイクルファクトリー 牧野政彦氏 1/22 11 時 30 分から

ウ.競輪選手トークショー

- ・ガールズケイリン 高橋梨香選手(埼玉・106 期) 1/21 14 時から
- ・後閑真一選手(東京・65 期)&脇本雄太選手(福井・94 期) 1/22 14 時から

エ.「ハンドメイドバイシクルを知ろう！」コーナー

・自転車文化センターが所蔵する古いハンドメイドバイシクルと合わせて、松田志行氏が世界で初めて製作したオール内蔵レーサーを展示。

1 日体験コーナーでは、自転車はどのように作られているのかを実際に簡易フレームキットを使って製図を元に組み立てる体験や、やすりがけを実施した。

来場者数:合計 3,172 人(21 日 1,609 人/22 日 1,563 人)\*対前年度比 123.8%

## ③自転車に関するテーマ展示

自転車文化センターギャラリー・ライブラリー内で、3 ヶ月ごとにテーマを設けて、所蔵資料を活用し紹介するテーマ展示を開催した。自転車に対する親しみを深めてもらうとともに、自転車の新たな魅力・利用方法等について周知した。

ア.名称:『自転車月間・自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」』展

期間:平成 28 年 4 月 6 日～7 月 3 日

内容:自転車月間中央大会～サイクルドリームフェスタの歴史紹介  
サイクルドリームフェスタ 2016 紹介  
ツアー・オブ・ジャパンに係る旧ロードバイクの展示  
TOJ出場 2 チーム実車・ユニフォーム展示  
2015TOJ大会総集編TV番組放映 他

入場者数:2, 118 名

イ.名称:「競技自転車の歴史」展

期間:平成 28 年 7 月 6 日～平成 28 年 10 月 2 日

内容:オリンピックやツール・ド・フランスで使用された競技用の自転車並びに現在、ほとんど見なくなったスタイルの競技用自転車の展示や自転車の競技方法、自転車レースの歴史をパネルで解説。

入場者数:2, 021 名

ウ.名称:「おもしろ自転車」展

期間:平成 28 年 10 月 5 日～平成 29 年 1 月 9 日

内容:形状や機能が通常の自転車と異なるおもしろ自転車の展示や、おもしろ自転車にまつわるクイズを実施した。

入場者数:1, 991 名

エ.名称:「錦絵が語る明治から昭和初期の東京名所と自転車」展

期間:平成 29 年 1 月 12 日～平成 29 年 3 月 31 日

内容:明治から昭和初期の東京の名所と自転車が描かれた錦絵の展示や日本橋・上野の街の変遷と自転車の変遷が重なる展示。

入場者数:1, 731 名 \*4 展示入場者数合計 7, 861 名

#### ④自転車教室(楽しさと安全利用)

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の人々が参加・体験できる自転車科学教室ならびに自転車のしくみ教室を開催した(科学教室定員 10 名・自転車のしくみ教室定員 5 名)。

・8 月 6 日(土) ・11 時から「自転車科学教室」(参加者 4 名)

\*「スポークの働きを調べてみよう」・「自転車のライトはなぜ電源が無いのに光るのか？」

・13 時から「自転車のしくみ教室」(参加者 6 名)

\*「自転車を分解してしくみを知ろう」 参加者合計 10 名

加えて、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員や自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小・中学生や一般社会人・高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターなどによる実技体験を盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室などを、合計 14 回開催した。

#### ア.「自転車交通安全講習会」

日 時 平成 28 年 4 月 11 日(月) 15 時～16 時

主 催 K インターナショナル東京

場 所 K インターナショナルスクール東京校内

内 容 小学生低学年を対象に、自転車交通安全の座学講習並びに実技指

導を行った。

人数 15名

イ、「親子自転車交通安全教室」

日時 平成28年7月2日(土) 10時～

主催 川崎市幸区PTA協議会

場所 川崎市立西御幸小学校体育館内

内容 子供保護者を対象に、交通事故撲滅のための自転車の交通ルールと安全マナーの講習会を行った。

人数 300名

ウ、「自転車安全講習会」

日時 平成28年7月13日(水)・14日(木) 10時～12時

主催 公益社団法人 杉並区シルバー人材センター

場所 下高井戸区民集会所(13日)・方南会館(14日)

内容 同シルバー人材センター会員を対象に、「自転車に安全に乗るために」についての講習会を行った。

人数 53名(13日:22名/14日:31名)

エ、「静岡県交通安全リーダー合同研修会」

日時 平成28年10月13日(木) 14時～15時

主催 静岡県くらし・環境部

場所 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階501会議室

内容 静岡県交通リーダーを対象に「自転車を安全利用するための指導法」についての講習会を行った。

人数 70名

オ、「自転車安全講習会」

日時 平成28年11月22日(火) 9時45分～11時45分

主催 公益社団法人 文京区シルバー人材センター

場所 文京シビックセンター四階シルバーホール

内容 同シルバー人材センター会員に向けた自転車安全講習会を行った。

人数 約380名

カ、「自転車のシミュレーターを使った自転車安全講習会」

日時 平成28年10月18日(火)・19日(水)13時30分～16時

主催 (公財)東京しごと財団

場所 東京しごとセンター

内容 公益財団法人東京しごと財団主催によるシルバー人材センター安全管理委員会の委員を対象として、安全な自転車の乗り方についての講義及び自転車シミュレーターを使用した体験学習を行った。

人数 34名(18日:17名・19日:17名)

キ、「自転車安全講習会」

日時 平成28年12月8日(木) 14時～15時

主催 公益社団法人 杉並区シルバー人材センター(高井戸分室)

場所 杉並区立高井戸地域市民センター2階 多目的室

内容 高井戸地区地域班会員を対象に「自転車の安全な乗り方」講習会を行った。

人数 39名

ク、「自転車事故の特徴と、その防止」座学

日時 平成 28 年 12 月 21 日(水) 14 時 30 分～18 時  
主催 全国大学生生活協同組合連合会  
場所 大学生協杉並会館 地下会議室  
内容 全国大学生生活協同連合会職員等を対象に「学生の生活リスク講座」での「自転車事故の特徴と、その防止」についての座学を行った。

人数 39 名

ケ.「自転車安全講習会」

日時 平成 29 年 3 月 13 日(月) 午前の部 9 時 45 分～12 時  
午後の部 13 時 15 分～15 時 30 分

主催 (公社)葛飾区シルバー人材センター

場所 同センター3 階会議室

内容 同センター主催によるシルバー人材センター会員を対象とした、安全な自転車の乗り方についての講習会を行った。

人数 38 名(午前:19 名・午後 19 名)

⑤自転車常設企画展示

年間約 50 万人が来館する「科学技術館」(千代田区北の丸公園内)2 階に、歴史的自転車実物等の展示室『自転車広場』を出展した。

□展示場所:科学技術館 2 階(東京都千代田区北の丸公園 2-1)

また、自転車のテーマパークである「日本サイクルスポーツセンター」(静岡県伊豆市)及び新設されたベロドロームにおいて、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進を普及啓発する常設企画展示を行った。

□展示場所:日本サイクルスポーツセンター(静岡県伊豆市大野 1826 番地)

□内容(各展示共通):自転車文化センター各施設紹介パネルの展示、自転車及び関連物品展示等

期間(各展示共通):平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

⑥自転車利用環境調査研究レポート

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考えるための調査研究として、下記の各 3 テーマ/合計 5 テーマのレポートを作成し、平成 29 年 3 月末に調査研究報告書を印刷・発行し、全国都道府県立図書館や 47 都道府県交通安全協会・都道府県サイクリング協会等に配布した。

\*当センターホームページにおいて公表 <http://www.cycle-info.bpaj.or.jp/research/>

【高齢者の自転車利用】

- ・高齢者の自転車乗車時におけるふらつき(※人類働態学会会報第 102 号掲載)
- ・高齢者の自転車転倒による傷害(※人類働態学会会報第 105 号掲載)

【大学生の自転車利用】

- ・大学生自転車事故のリスク発生原因と減少対策

【自転車 ADR センター】

- ・自転車 ADR センター利用傾向の分析
- ・自転車 ADR センターにおける自転車事故実態及び紛争原因の分析

(3)バイコロジー推進事業

①バイコロジー地方組織開催事業

現在、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となっており、自転車の持つ可能性に

大きな期待が高まっている。また、自転車乗用環境整備の立ち遅れ、自転車利用者モラルの低下などによる、放置自転車問題、交通事故の増加等が社会問題として派生しており、その解決を図ることが喫緊の課題である。こうした状況を改善していくための方策の一つとして、全国的な規模でバイコロジー運動を実施している。

バイコロジーとは「自転車が安全かつ快適に利用できる自然豊かで人間味あふれる社会の構築を目指す」を理念としており、その推進のため統一キャンペーン事業や各地域の組織が創意工夫した事業を展開した。

#### ア.バイコロジーをすすめる会総会

日時:平成 29 年 3 月 14 日(火)15 時 00 分～

場所:自転車総合ビル 601 会議室

議題:・平成 29 年度バイコロジー運動方針について

・平成 29 年度バイコロジー統一事業の概要について

・その他(「自転車活用推進法」の公布について)

#### イ.バイコロジー地域活動

平成 28 年度バイコロジー運動方針に基づき、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春と秋の全国交通安全運動の期間及び 5 月の自転車月間期間中に実施し、全国的な普及啓発を図った。また全国のバイコロジー地方組織が行う独自の事業として、自転車乗用環境の整備促進、放置自転車の一掃、自転車交通事故の解消、自転車による健康づくり等をテーマにした各種事業が実施された。(参考:高齢者への自転車交通安全教室など自転車交通安全関係事業、タンデム自転車走行会など自転車による健康づくり等事業 ほか) また、バイコロジー運動の効果を高めるために、各地方組織が使用するのぼり旗を追加で制作した。

#### ②自転車市民権セミナー開催

乗用時に CO2 を排出せず、環境に優しい乗り物である自転車利用を促進し、自転車の素晴らしさを広く普及啓発するために、自転車を取り巻く様々な問題を一般の方々と共に考え「自転車市民権」の確立を目指す場として、参加者のニーズに応えるため、その時々タイムリーなテーマを設定し、各界の第一線で活躍されている学識経験者や有識者を招聘し講演いただくことで、自転車の新たな情報の発信の場としての役割を創出することができた。

開催場所については、本会会議室(目黒自転車総合ビル 6 階 601 会議室)にて、計 6 回自転車セミナーを開催した。

##### ア.第 1 回自転車セミナー<9 月 15 日(木)18 時～19 時 30 分>

講師:中野 喜文 氏(エンネ スポーツマッサージ治療院 院長)

テーマ:「日本人施術家が見た欧州プロロードの世界、その可能性について」

参加者:47 名

##### イ.第 2 回自転車セミナー<10 月 26 日(水)18 時～19 時 30 分>

講師:竹谷 賢二 氏(サイクルアドバイザー)

テーマ:「自転車で感覚を磨いて、生涯現役」参加者:55 名

##### ウ.第 3 回自転車セミナー<12 月 14 日(水)18 時～20 時>

講師:堂城 賢 氏



テーマ:「自転車の乗り方の基本を創る～理想的な身体の使い方～」参加者:49名  
エ.第4回自転車セミナー<1月24日(火)18時～19時30分>

講師:桑原 弘樹 氏(コンディショニングスペシャリスト)

テーマ:「サプリメントの実践的活用」参加者:22名

オ.第5回自転車セミナー<2月24日(金)18時～19時30分>

講師:アルバノ・ピノ・コウニャゴ 氏(1986年ヴェルタ・ア・エスパーニャ優勝者)

テーマ:「自転車競技との出会い～スペインの自転車競技について～」

参加者:23名

カ.第6回自転車セミナー<3月23日(木)18時～20時>

講師:高梨 麗 氏(㈱明治 広報部/管理栄養士/健康運動指導士)

テーマ:「走れるからだをつくる」参加者:26名

### ③バイロロジー地域リーダー養成セミナー

地方におけるバイロロジー運動のリーダーを育成し自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、自転車を安心して乗ることが出来る環境づくりや今後の自転車のあり方を検討するバイロロジー指導者養成セミナーを開催した。

開催日 平成28年11月9日(水)東京都品川区/自転車総合ビル601会議室

内容 ア.講演【13時30分～15時】

講師:古倉宗治氏(㈱三井住友トラスト基礎研究所 研究理事)

テーマ:『健康で安全な自転車利用をいかに推進するか～高度化する自転車まちづくりの視点と施策～』参加者:62名

イ.バイロロジー地方組織意見交換会【15時～16時30分】

全国19都道府県のバイロロジー地方組織関係者23名と本会事務局で、日頃の活動状況に関する情報交換・今後の事業展開に関する意見交換を実施した。

### (4)自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として実施した。

「アルバノ・ピノ・コウニャゴ氏 来日記念ポタリング」

開催日時:平成29年2月25日(土) 10:00～12:00

コース:自転車文化センター～神宮外苑～パレスサイクリング～虎ノ門～スペイン大使館(約16.2Km)

参加者:25名

### (5)自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査(自転車総合ビル前・都立高校・白金幼稚園前等)を行った。

また、自転車利用における乗用環境の実態を把握するために、駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認等の調査(東京駅他山手線、中央線8駅)も併せて行った。

全般的に歩道走行が多く、自転車の車道左側通行が浸透しておらず、逆走もみられるなど、また、鉄道駅周辺の放置自転車が增加傾向の中、更なるルール・マナー啓発の必要性がある。

#### ①自転車走行状況の定点調査

都内における自転車利用の実態を把握するために走行台数、走行空間(車道・歩道)、および危険走行の調査を行った。

いまだ歩道走行が多く、自転車の車道通行が浸透しておらず、逆走もみられるなど、更なるルール・マナー啓発の必要性がある。(自転車総合ビル前等、都内各所で実施)

#### ②自転車乗用環境実態調査

都内における自転車利用における乗用環境の実態を把握するために駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認、および危険箇所の選定(交差点など)等の調査を行った。(都内で選定した駅周辺で実施)

### (6)自転車駐車場設置貸与事業

全国の鉄道駅周辺の放置自転車対策としてモデルとなる自転車駐車場の整備を実施し、今年度も引き続き1箇所624台分の自転車駐車場を無償で貸与した。貸与している自転車駐車場については、毎月、自転車利用状況調査を実施し、今後の放置自転車対策に役立てた。

なお、平成29年3月30日付で無償貸与期間が満了した、勝田台南第5自転車駐車場を八千代市(千葉県)に無償で譲渡したことにより、過年度に本会から無償貸与していた自転車駐車場は、全て無償譲渡が完了した。

### 3. 自転車 ADR 事業

本年度受付数10件、調停日数10回、和解成立数3件。

また、自転車ADRセンター会議を開催した。

#### ①平成28年度第1回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時：平成28年6月10日(金) 14時00分
- ・開催場所：自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題：ア.平成27年度事業報告について  
イ.平成27年度決算報告について  
ウ.自転車ADRセンター事業状況報告について  
エ.その他

#### ②平成28年度第2回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時：平成28年9月9日(金) 14時00分
- ・開催場所：自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題：ア.自転車ADRセンター事業状況報告について  
イ.その他

#### ③平成28年度第3回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時：平成28年12月2日(金) 14時00分
- ・開催場所：自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題：ア.自転車ADRセンター事業状況報告について

イ.その他

④平成 28 年度第 4 回自転車 ADR センター会議

- ・開催日時：平成 29 年 3 月 3 日(金) 14 時 00 分
- ・開催場所：自転車総合ビル 6 階 602 会議室
- ・議 題：ア.平成 29 年度事業計画について  
イ.平成 29 年度収支予算について  
ウ.自転車 ADR センターの事業状況報告について  
エ.その他

4. 自転車関連機器の普及等事業

投票業務用機器等の新機器導入のため、茨城県等と新規にリース契約を下表のとおり締結した。

No	リース先	契約日	リース物件・機器代金	リース期間
1	ラ・ピスタ新橋 (ラ・ピスタ新橋管理施行者協議会)	リース H28.2.26 工事 H28.2.26	トータルセータシステム 109,944,000 円(税込)	5 年 H28.4～ H33.3
2	取手競輪場 (茨城県)	リース H28.5.17 工事 H28.5.17	自動発売機等 33,804,000 円(税込)	5 年 H28.6～ H33.5
3	高松競輪場 (高松市)	リース H28.11.17 工事 H28.10.11	投票業務用機器等 70,965,720 円(税込)	5 年 H28.11～ H33.10
4	高松競輪場 (高松市)	リース H28.11.17 工事 H28.10.11	映像・音声設備 143,640,000 円(税込)	5 年 H28.11～ H33.10
5	取手競輪場 (茨城県)	リース H28.11.11 工事 H28.11.24	自動発売機等 54,000,000 円(税込)	5 年 H28.12～ H33.11
6	京王閣競輪場 (十一市競輪事業組合)	リース H29.2.28 工事 H29.2.17	自動発売機等 32,832,000 円(税込)	5 年 H29.3～ H34.2
合 計			6 カ所 6 契約	

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリ-の販売も行った。

5. 財団の運営に関する業務

※理事会、評議員会、赤坂一丁目地区市街地再開発組合各種会議の詳細内容については、「Ⅲ. 庶務事項(P.20～)」を参照。

平成 28 年 6 月 23 日、平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に、電子申請により提出した。

「自転車総合ビル」関係では、管理会社を選定しビル管理を行うとともに、屋上防水及び塗装工事、非常階段通路誘導灯及び誘導灯LED更新工事を行った。また、「赤坂一丁目再開発ビル(正式名称:赤坂インターシティAIR)」関係では、平成 29 年 8 月末の竣工に向けて、総会・理事会・勉強会に出席した。

その他、現行の会計システムメニューを継続使用するため、サーバーの移行作業を含むリプレース開発を行った。

\*なお、以下の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業
  - (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業
  - (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動
  - (1) 自転車月間推進事業
  - (2) 自転車文化センター運営事業
    - ① 自転車に関する総合情報提供事業
    - ② 自転車に関する企画催事の実施
    - ③ 自転車に関するテーマ展示
    - ④ 自転車教室(楽しさと安全利用)
    - ⑤ 自転車常設企画展示(科学技術館内自転車広場)
    - ⑥ 自転車利用環境調査研究
  - (3) バイコロジー推進事業

#### 【参考】

##### 各種委員会等会議一覧(平成 28 年度開催実績分)

1. 自転車月間推進協議会総会
2. TOUR OF JAPAN 組織委員会
3. バイコロジーをすすめる会総会

##### 報告書等印刷物一覧(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月作成分)

	印刷物	総部数
1.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」告知チラシ(A4)	13,000
2.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」ポスター(B2)	2,500
3.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」プログラム	10,000
4.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」報告書	2,200
5.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制チラシ(B4)	61,000
6.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制バスポスター(B3)	300
7.	「第 19 回ツアー・オブ・ジャパン」レースマニュアル	300
8.	自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット	64,800
9.	自転車月間「自転車の日」記念行事事業報告書	270
10.	自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ 2016』チラシ	6,000
11.	自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ 2016』ポスター	160
12.	平成 28 年度・自転車文化センター調査研究報告書(第 9 号)	300